



# ACtive

## CONTENTS

Page 2.  
対面実験の取り組み

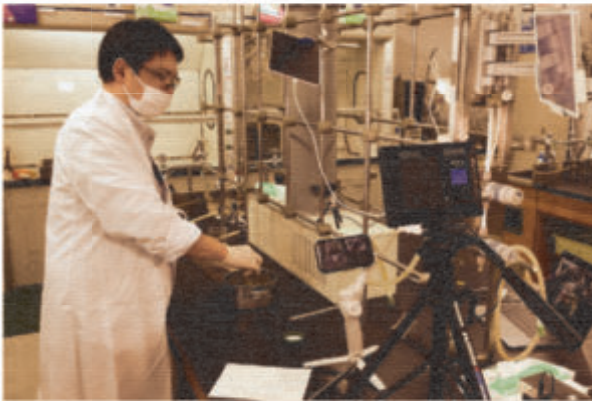
Page 3.  
遠隔授業の取り組み  
教員インタビュー

Page 4.  
就職課に聞いた  
コロナ禍の就職活動  
& 3年生のレポート

Page 5.  
Busseigram  
(フォトアルバム)

Page 6.  
新任の先生へ  
インタビュー

Page 8.  
大学院のすすめ



## 巻頭挨拶

物質生命化学科 主任 引地 史郎

この学科通信誌 ACtive は、学生を中心とした編集委員により制作され、例年であれば7月に皆様方へお届けしておりましたが、コロナ禍にあつて従来通りの発行を断念せざるを得ない状況にありました。しかし後学期に入って一部対面式の授業が行われるようになったこと、また IT 技術の活用による“遠隔でのインタビュー”なども行えるようになったことを受け、例年とは大きく異なる学科の教育活動の様子をお伝えするべく、この特別号を制作する運びとなりました。

本年2月に始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、神奈川大学の様々な活動にも多大な影響を及ぼしてきました。卒業式や入学式が中止となり、前期の授業は全て遠隔式(オンライン)での開講となりました。そして10月からの後学期の授業は、オンラインを基本としながらも一部の科目が対面式で行われています。当学科の教育カリキュラムの柱ともいえる学生実験についても、綿密な感染防止策を講じた上で対面で実施しています。しかし、学生諸君の居住地やその御家族も含めた健康上の事情にも配慮して、対面実験は成績評価には含めず、希望者のみの参加としました。そのため、あくまでも“授業としての学生実験”については、実験の様子を撮影

した動画や綿密な解説とデータを組み合わせた“仮想実験”の形で行われています。すなわち、“仮想実験”と“対面実験”のハイブリッド型となっておりますが、結果的には例年以上に「考えることを重んじる」実験カリキュラムとなりました。

新型コロナウイルスの感染拡大は第三波といえる局面を迎えており、予断を許さない状況にあります。コロナ禍にあつて、ともすると考え方や行動が“後ろ向き”になりがちですが、変革せざるを得ない状況に置かれた現状を前向きにとらえていくことも必要だと思います。そして私たちの学科で学ぶ“化学”は、いかに AI などの技術が発展しようとも私たちの生活を今後も支えるものであることに変わりはありません。このような考えのもとで、皆で一丸となつてコロナ禍を乗り越えていきましょう。



# 対面授業の取り組み

本学では新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から入構規制が続いておりますが、物質生命化学科の実験実習科目は後期より対面授業が認められることとなり、対面を希望する学生の入構が始まりました。

## first year students

### 【物質生命化学実験基礎】

1年生にとっては、入学後初めての登校となり、ようやく同級生と対面することができました。



三密を避けた学生間の距離を配慮した配置  
従来2~3名で班を組んで操作する実験台を今年は1人で使用



実験中は各自iPadで操作や注意事項を確認しながら進める



必要に応じて手袋を着用



指導する教員も距離を保ちながら安全第一で丁寧に指導



初めて会うことができた同級生と実験後の記念撮影

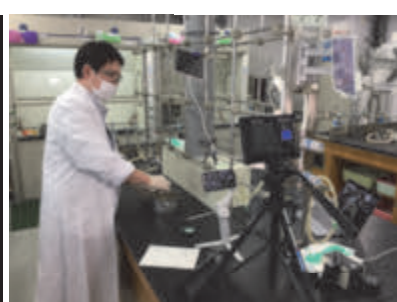
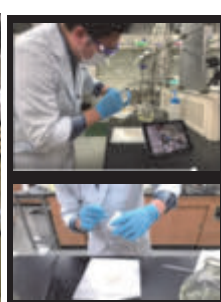
### 対面実験の感想

- 初めて大学で実験ができて、もっとたくさんの実験をやりたいと思いました。
- 説明を聞いて理解できても、実際に手を動かすと全然違うことがわかりました。
- 本格的な実験は初めてでしたが、楽しみながら実験をすることができました。
- 内容が理解できないと作業になってしまうので、予習が大切だと思いました。

## second year students

### 【物質生命化学実験B】

2年生は、無機分析化学系・物理化学系で対面実験、有機化学系では教員による実験生中継が実施されました。



2年生は1年生より使用する器具や装置の種類が増えるため、大きな実験台に1名ずつ配置して実験を行いました。久しぶりの実験に、慣れない手付つきも見受けられましたが、同級生に再会できたこともあり、楽しんで実験を進めていました。総合工学プログラムの3年生は物質生命化学科の2年生と一緒に本講義を履修しています。

本人やご家族の事情で入構できない学生には、対面実験の様子を動画配信しました。実験の臨場感が少しでも伝わっていることを願います。

本講義は大学 HP に関連記事が紹介されています。

神大ニュース NEWS & TOPICS

2020.11.02 キャンパスで安心して研究・教育活動を続けるために ~感染防止対策~

2020.11.02 工学部 物質生命化学科 コロナ禍の取り組み-安全・安心に取り組める実験・実習の実践のために

2020.11.02 新型コロナウイルス 学生生活等に詳しい 250KB



Q オンライン授業になって一番大変だったことは何ですか？

A どの教員でもそうだと思いますが、IT 環境に慣れるために勉強するのが大変でした。でも世の中に追いつけたというか、置いていかれなくて良かったですね。研究をやっていると他大学の先生と研究発表会をやることがあるのでその前段階の勉強にもなって、苦労したけど面白かったです。

Q オンライン授業になり、工夫したことは何ですか？

A 工夫したことというか努力したことは、初回の授業で最初から Zoom で授業が受けられるようにするために多くの情報を発信しました。授業の動画は YouTube にアップする方法をとって、なるべく多くの動画をアップして学生に見てもらおうようにしています。今の段階で 120 本くらいの動画があり、全部で 1 万 1 千回再生されています。一番再生回数が多かったのは実験の「レポート作成編」で 650 回再生されていて学生の熱意を感じました。

Q 先生は授業でオンデマンド型の形式をとっていますが、その理由は何ですか？

A リアルタイム型とオンデマンド型のどちらがいいのか未だにわかりませんが、最初はオンライン授業に慣れていない学生が授業に参加できずに見逃してしまったとのために録画が良いと思って始めました。留学生に対しては日本語が難しかったなどの理由で 1 回では理解できなかった時のためにも繰り返し見れるほうが良いと思いました。しかし、良くない点は動画を視聴できる時間が自由なので夜型の学生が増えてしまったのではないかとこのところですね。動画を見すぎてもはわかりませんが、目が悪くなったという学生もいました。



インタビュー中のこぼれ話

最近は散歩にはまっているという松本先生。朝 5 時くらいから起きて 1～2 時間くらい歩くそうです。また、鉄道系・旅行系の YouTube 動画を見るのが好きとのこと。

Q 学生の反応が直接見えないことで不安はありませんでしたか？

A 授業の最後にアンケートを行ったり、メールで質問が来たりするので全く反応が見れなかった訳ではないです。オンライン授業が始まった当初はいろんな質問のメールが来ていて毎日その対応をしていました。

Q 授業形式はそのままオンデマンド型で行っていきますか？

A FYS やガイダンスはリアルタイム型、他の授業に関してはオンデマンド型で行っていますが、今のところはこのままの予定です。一番変えたいのは定期試験です。公正のために期末試験だけ学校で行いたいですね。

Q 最後に学生へのメッセージをお願いします。

A 皆さんはもう怠け癖がついていると思うので大学の授業が対面になって正常に戻る時に向けて起きる時間を決めたり、運動したりして規則正しい生活をするを心がけたほうが良いと思います。これから復帰する努力をしましょう！

記事ライター：宍戸 佑衣（3 年）



Q 授業準備で工夫された点は何ですか。

A 対面時と同じくパワーポイントを使用しています。今年度は Zoom を利用していますが、1 つの良い点として、教室へ入室する雰囲気を作り出せるということです。やはり教室と同じ雰囲気、授業を行う必要があると思いますので。スライドは対面時とほぼ同じかたちですが、遠隔授業では話すスピードをややゆっくりにしたり、ポイントを強調したり、学生の反応を予想して説明・解説することを意識しながらできるだけ普段と同じ雰囲気で行うことに心がけています。ただし、学年によっては少し異なります。例えば、1 年生は大学にほぼ来られていないので、同級生同士で小グループに分かれて毎週授業外話ができるよう、工夫をしました。

Q オンデマンドではなく、オンラインの授業をされている理由を教えてください。

A 私はオンデマンド形式を好んでいません。なぜなら、一斉に教室へ入室するという雰囲気はなく、ビデオを見ているだけになるからです。授業を受けるという雰囲気はないですね。ただやむを得ず、オンデマンド形式で行う必要があるときも当然あります。しかし、できる限り教室での授業の雰囲気を再現するために、生中継的なオンラインで授業を行い、学生は（仮想）教室へ入室することで意識がある程度高まるのではと思っています。

Q オンライン授業のデメリットとその対策を教えてください。

A 本来の対面時では、学生の表情を確認しています。授業はただ 1 人で話すのではなく、双方のコミュニケーションですので、表情を確認しながら授業の進み具合を考えています。ですがオンラインでは、学生一人一人の表情は確認できません（授業の最初だけは全員に Zoom にてビデオをオンにもらって、表情を見ることはしていますが…）。ただし、Zoom 授業中の私の顔は常に授業画面の一角に映っています。先生が「教室」で授業をやっているリアリティーを学生諸君が感じてほしいからです。ま

た、授業毎にアンケートや課題といった提出物を課し、これに対する応答により、おおよその学生の集中度を把握しています。提出された課題から学生がどのような姿勢で授業に取り組んでいるかを確認するということですね。このような方法でデメリットを改善しなくてはならないと思って日々考えながら授業を行っています。

Q 今年度後期・来年度の授業期間中に試験を実施する予定はありますか。

A 私は前期の時点で、オンライン授業の中で試験を実施しています（高分子科学 I など）。方法として、授業時間に試験問題を出し、一人一人 Zoom 画面に顔を出した状態で解答に取り組み、90 分といった規定時間内に回答データ（用紙）を Microsoft Teams にて提出する形式で行っています。驚いたことに、一定の学生のパソコンスキルは想像したより遥かに高く、限られた規定時間に記述文から化学構造式まで全てパソコンで作成した答案を提出しています。もし試験を実施しないとすると、学生一人一人の学修を評価するのが極めて難しくなります。オンライン授業であっても、テスト形式を必ず行うというのが、私の個人的な考え方です。オンライン形式での試験は、教室に入室したような雰囲気で行うことになり、学生には勉強しなければならないという緊張感が多少生まれます。したがって、これらを学生に要求するために試験を実施しているとも言えます。



お互いに顔を見せながら行う金先生の授業

記事ライター：小田内 健佑（3 年）

# 来年度から卒業研究が始まる3年生に話を聞いてみました

中国からの留学生ホウミアオさん  
国を超えても授業を受講できる喜びを教えてくださいました

春休みの時帰国して、思いがけずコロナの原因で日本に戻れなくなりました。最初は授業が受けられないと思ってとても焦りました。幸いなことに遠隔授業が始まって、日本に行かなくても普段と同じように授業を受けられました。Zoomで先生とバリアフリーに交流できて本当に嬉しかったです。



留学生のホウミアオさん

今は住んでいるところの大雪のせいで再度日本に戻れなくなりましたが、先生とSAさんTAさんのおかげで輪講の知識をマスターできるようになりました。このような優しい先生と大学院生さんがいることで楽しい大学生活を過ごせると思います。



ホウさんの地元の雪景色

今年度岡田研究室に配属された神戸光さん  
久しぶりの対面授業の感想を聞いてみました

久しぶりの対面授業は少人数だったこともあり、先生への質問や友人間での相談もしやすく、同じ研究室のメンバーとの距離もグッと縮まったように感じました。また配属された研究室の見学もでき、研究室に配属された実感が湧きました。オンライン授業よりも気を引き締めて授業を受けることができるのは対面授業ならではの良い点だと改めて感じました。



研究室で行う輪講の対面授業の様子

## 就職課にインタビュー ～コロナ禍の就職活動について～

コロナ禍による就職活動の変化、そして大学に行けない中での相談先など、不安や疑問はたくさんあると思います。今回は就職課の渡邊さんにお話を伺いました。

Q1. 今年の就職活動において企業側でどのような変化がありましたか？

採用活動が中断したり、スケジュールの後ろ倒しが多く見られました。採用プロセスにおいては、すべてオンラインで行う企業や最終面接のみ対面で行うなど様々です。今までWEBを使っていなかった企業でもオンライン化が促進されました。



取材に応じてくれた就職課渡邊さん

Q2. 就職課はどのような対策を行われていますか？

就職アドバイザーによる面談は、Zoomを用いてオンラインで行うようになりました。KUキャリアナビ※では最新のおすすめ求人やインターンシップ、オンライン合同企業説明会、業界研究セミナー情報などを随時更新しています。

4年生には、進路調査のための電話連絡をして相談対応を行い、必要に応じて就職アドバイザーへの面談予約をとるなど、一人ひとりに寄り添ったサポートをしています。また少しでも不安をとり除けるよう、最新の情報を提供しています。

Q3. 就職課で行われている講座や就職相談って？

就職課では、様々な経歴をもった就職アドバイザーとの40分間のWEB面談の他、オンラインを活用して様々な講座やイベントを行っています。

例えば、企業で働いている人事担当者による業界の

話や、卒業した先輩から話を聞くことができるイベントなど、様々な角度から最新の情報を発信しています。また、U・Iターンなど、地方就職についての講座やイベントもあります。

就職相談の内容は学年によって異なりますが、低年次からは就職活動の準備は何から始めれば良いか、3・4年生からはインターンシップの相談や応募書類の添削、面接練習などが多くあります。

Q4. 今後の就職活動へ向けてアドバイスをお願いします

来年度以降も、企業の採用活動は対面とオンラインを併用することが予想されます。就活生は双方に対応できるようにしっかりと準備をしましょう。3年生の秋冬には採用直前のインターンシップの募集が始まり、そこから早期選考につながることもあります。

学業・サークル・アルバイト・ボランティアなど様々な経験を通じて、低年次から「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」などを高めましょう。まずは就活の第一歩として、就職アドバイザーによる個別面談を利用してみてください。そうすれば自ずと、自分の足りないことや準備しなければいけないことが見つかると思います。

※神大オリジナルの就職支援WEBサイト。神大生はWeBSt@tionからアクセスすることができます。

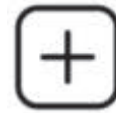
記事ライター：刈谷 志穂(3年)



取材した学生編集委員、刈谷(左)、宍戸(中)、鷲頭(右)

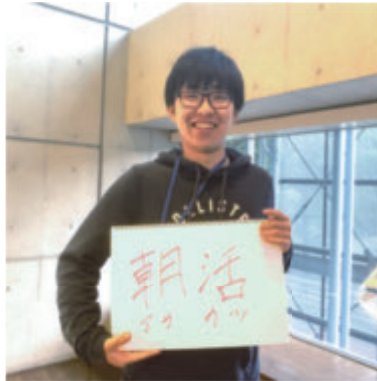


# Busseigram

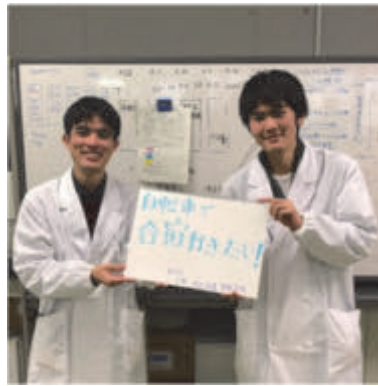
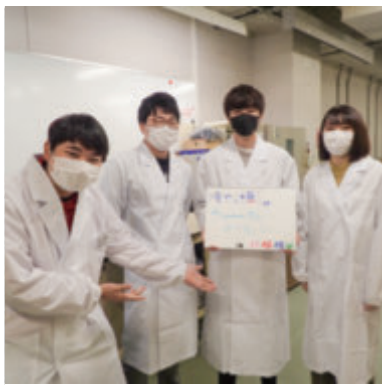


## #自粛期間に始めたこと

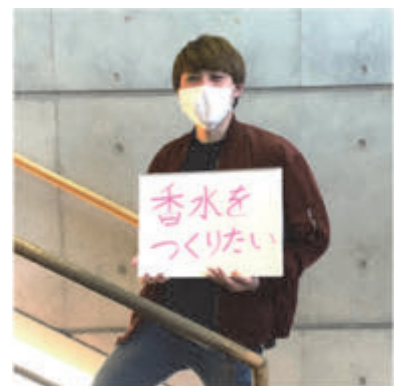
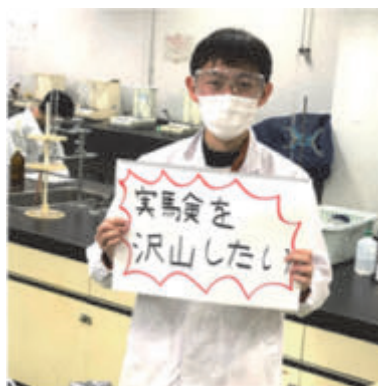
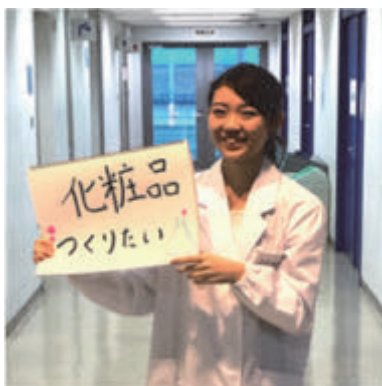
物生学生の素顔に迫ります。  
対面講義受講のために入構した学生に、今年の近況について答えてもらいました！



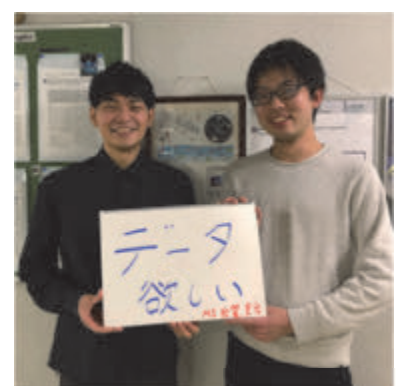
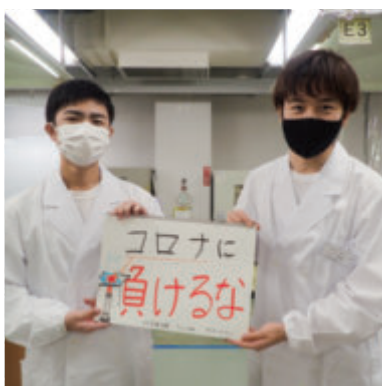
## #コロナが終息したらしたいこと



## #物生に入って



## #今の気持ちを一言



# Interview

candid reports of new faculty members

特任准教授 おりさく けいこ  
織作 恵子 先生



石川県出身。東京大学大学院で博士を取得後、新潟薬科大学、東京大学、神奈川大学で研究員、非常勤講師などを経て2020年4月より本学特任准教授。専門分野は有機金属錯体。趣味は料理。

## Q. 先生の出身地について教えてください

石川県金沢市出身です。オススメの時期は 11 月過ぎです。意外かと思うかもしれませんが、夏はとてもし暑いんですよ。食べ物も秋から美味しくなる海産物がオススメです。名所 兼六園も秋の紅葉、冬の雪吊りの時期が見応えがあります。

## Q. 今までどのような研究をされてきましたか？

窒素からアンモニアなどを合成する技術、いわゆるハーバーボッシュ法は高温、高圧を必要とする反応ですが、実はマメ科の植物はそれを常温、常圧で行うことが可能なんです。私はそれを人工的にできないかというアプローチで学部から大学院にかけて研究をやってきました。その当時、世界で初めて窒素錯体を使った窒素の固定化触媒を開発したということで、今でも当時の研究論文が総説などにしばしば取り上げられます。その後も錯体を中心とした仕事をやってきました。ここ数年は金属錯体を使った固相反応に取り組んでいます。光を当てると結晶中で反応が起こり、分子が付いたり離れたりするんです。

## Q. 本学のいいところはどのような所ですか？

おらかな学生さんが多い気がします。悪く言ってしまうと「のんびりしすぎでしょ」という面もありますが、みなさん真面目に授業を聞いてくれて、素直な学生ばかりだなと感じます。また、総合大学ということで広い分野を網羅しているのがいいですね。文系、理系と様々な学部学科があるので、サークルなどで人の繋がりも幅広く持てると思います。あと、大学のサポートも非常に充実していますよね。例えば、英語や数学などが苦手な学生向けにマンツーマンで教えてくれるような環境もあります。さらに奨学金制度が本当に充実していて、神奈川大学独自の給付奨学金がたくさんあります。経済的に心配することなく研究や勉学に励むことができる環境が整っているのはすばらしいですね。

## Q. 推しの元素を教えてください

コバルト (Co) かモリブデン (Mo) かな。錯体触媒によく使われます。学生時代から扱っているんで、愛着があります。長年実験をしていると、扱っている化学物質はかわいく思えるんですよ。

## Q. オンライン授業で大変なことなどはありますか？

下宿先に教科書を置いて帰省してしまった学生が、2, 3年生の場合、結構いるんですよ。そのような学生への配慮から、授業ではほとんど教科書を使わず、全てをパワーポイントに書き込んで進めているんですけど、化学式や数式が多く、入力しにくくて、毎回の準備が本当に大変です。あとは、対面授業ではみなさん寝てるなど思えば話題を変えて興味を持ってもらうとかそういうのができるんですけど、相手の反応がみられないので、ひたすら喋らなきゃいけないので通常の授業より疲れます (笑)。

大学全体の方針として学生が能動的に学べるような授業を展開しなければいけないんです。そうすると、課題やその解説もしっかり準備しなくていけなくて、フィードバックも通常以上にしなければなりません。対面授業とひと味違う学び方を経験して、講義を聞くだけではない自分で学んでいく学習法を身につけてほしいとおもって、一生懸命準備しています。

## Q. 先生の研究室を紹介して頂けますか？

岩倉研究室の副担当をしています。岩倉研ではいろんなことをやっています。岩倉先生はレーザーを使った最先端の研究をされている研究者です。反応中の物質変化などの反応過程を観るのが専門で、第一線で活躍されています。一方で、私は有機合成錯体化学など今までのような研究をやってきていますから、それらを岩倉先生の研究と融合させて新しい反応の開発や未知の現象の発見を目指して研究しています。物理学を駆使したレーザー科学もできるし、錯体や有機物の合成もするし、光化学も…そういった意味で本当に色々な体験ができると思います。

## Q. 先生の専門分野の魅力について教えてください

みなさんも興味湧きませんか？固体の中で分子が動いたり、構造が変わったりするんです。X線結晶構造解析をすると、固体の中の現象が目に見えて観察できます。また、金属錯体で楽しいのは反応中に色が変わっていくことが多いので、反応が起こっているところを目のあたりにすることができます。構造解析をするときは結晶化させることが多いんですが、作った結晶を見ながら「おー、うつくしい！」とか「いい子だねえ〜」とか叫んでいます (笑)。結晶は宝石のように美しいです。

## Q. 学生に一言お願いします

どんな場面にあっても、肯定的に考えてほしいと思います。苦しい状況でいくら不貞腐れようが責任転嫁しようが、自分は変わらないし、前には進めません。例えば、こういうコロナの状況下で部屋から出られない、友達と会えない、オンライン上でしか講義を受けられない等、つらいことは色々あると思うんです。でもすべてマイナスに捉えるのではなく、その分時間もあるのだから、自分でたくさん考えることもできるし、今までやりたくてもできなかったことをこの機会に始めることもできます。めったにないチャンスです。皆さんには是非プラスのモチベーションで今の状況を過ごしてほしいと思います。

大学の授業は、こっちへ来るとこんなことがわかるよ、と示してくれる「道しるべ」です。そこへ歩いていくのは自分です。大学とは自分で歩いて、つまり自分で勉強するところです。高校までは学習範囲が限られていますが、大学はその先を勉強することができます。自分の勉強法を掴んで、自分の進みたい方向へ貪欲に学んでいって欲しいと思います。

## 生物活性物質化学研究室 (岡田研究室)

すみもと しんべい

### 助教 澄本 慎平 先生



宮崎県出身。琉球大学理工学研究科の修士課程を修了後、慶應義塾大学大学院理工学研究科で博士を取得。琉球大学での博士研究員を経て 2019 年 10 月より神奈川大学。

#### Q. 地元のおすすめの食べ物はなんですか？

とりの炭火焼きが好きですね。宮崎の炭火焼きはやきとりの串がないバージョンでとても美味しくくてオススメです。

#### Q. 子供の頃の夢はなんでしたか？

実は、あまり将来のことを考えていない子供でした。親が大工をやっているため、小さい頃は親のお仕事を手伝うのが楽しかったです。でするので、子供の頃の夢は「自分で自分の家を建てる」です。

#### Q. 先生の研究経歴と、研究室の印象を教えてください。

学生時代は生物系の研究をしていました。一方で岡田研究室では化学と生物、両方の視点から研究しています。有機化学だけでなく生物も取り扱っていて、そういった意味では幅広い研究ができます。合成や生物に興味がある学生におすすめですね。

#### Q. 授業がオンラインになりどのような変化がありましたか？

演習の授業や学生実験を担当しましたが、オンライン授業はとにかく難しいです。学生にとっても対面授業の方がいいと思います。早く対面授業が実施できるといいですね。研究室は徐々に活動できるようになり、研究室に学生が一定数いて嬉しいです。もちろん人数制限などで感染対策を徹底しています。

#### Q. 研究する上で大切にしていることはありますか？

研究をするときにはしっかり合理的に考えるようにしています。今まで将来のことを考えるときあまり深く考えていませんでした。例えば、周りから厳しいことを言われることがあっても、何事も頑張ればなんとかなると思ってきました。心に残っている言葉としてアントニオ猪木が引退の際に話した『道』というスピーチがあります。『この道を行けばどうなるのか・・・』という言葉から始まるもので、前に進んでみなければ何事もわからないので考えるより動こうというメッセージであり、その通りとにかく動くようにしています。

#### Q. 自粛期間に始めたことはありますか？

外に出られない日々でしたので YouTube を参考にストレッチや筋トレを始めました。また、外食にも行きにくい環境になったことから家で料理をするようになりました。

#### Q. 神奈川大学の学生に一言お願いします。

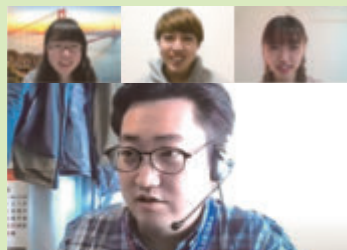
今の状況でなかなか学校に来れないのは、正直もし自分が学生だったら辛いと思いますが頑張ってください。徐々に学校に来られるようになると思うので会えるのを楽しみにお待ちしております。

記事ライター：清水 柊希 (2年)

## 遺伝子有機化学研究室 (小野研究室)

ふじわら しょうじ

### 助教 藤原 章司 先生



神奈川県出身。東京工芸大学で博士を取得後、半年間ベンチャー企業で働く。その後上智大学で特別研究員、明治学院大学での助手を経て 2020 年神奈川大学に着任。趣味は野球観戦。好きな球団はジャイアンツとヤクルト。

#### Q. 今までどのような研究を行ってきましたか？

シクロデキストリンについて研究しています。シクロデキストリンはバケツの底が無いような形をしていて、その空洞の中に様々な分子を取り込むことができるので、消臭剤にも使われています。また、シクロデキストリンには様々な分子をつけることができるので、例えば、溶液中で応答する化学センサーなど特別な機能をもったものを作ったりしていました。小野研究室に来てからは核酸とシクロデキストリンを組み合わせて、新しい機能を見つけられるよう研究しています。

#### Q. シクロデキストリンの研究を始めるきっかけは何ですか？

大学3年生の学生実験の時にシクロデキストリンを使う実験テーマがあって、面白いと思ったのがきっかけです。そこからなので 13 年ぐらいいはシクロデキストリンと共にいます。シクロデキストリンに関するだけで 13 年間も研究を続けているのはすごい恵まれているんじゃないかなって自分でも思っています。

#### Q. 尊敬している人物を教えてください。

学部時に所属していた研究室の指導教員の 高橋 圭子 先生です。女性で小柄なんですけど、パワフルでブルドーザーみたいな先生でした。なかでも印象的だったのは、『研究室で一番偉いのは、あなたでも私でもなくて分子だ』って言われたことですね。分子は生き物ではないですけど生ものっていうか、時間とともにどんどん変わっていくものもあります。あなた中心のスケジュールで動くんじゃない、分子中心に考えて動けっていう、当時は衝撃的な言葉でしたが、今はその通りだなんて思います。

#### Q. 学生のうちにやっておいた方が良くってありますか？

よく学び、よく遊べ、ですかね。学生の本分は学ぶことなんですけど、時間を見つけているんなことに挑戦して欲しいなって思います。大学の 4 年間はあっという間で、卒業してからのの方が長い。だからこそ、将来に活かせるようなことをやって欲しいです。合わなければやめれば良い。でも、やったということはプラスにはなってもマイナスになることはないと思うので、色々なことに挑戦して欲しいなって思います。

#### Q. 神奈川大学の学生に一言お願いします。

なかなか大学に行って普通の学生生活を送れないけど、それにめげず頑張ってください。少しずつ大学に入れるようになってきています。本人にしかその辛さは分からないと思うんですけど、この経験も無駄じゃないと思うので、なんとか耐えて頑張ってくださいと思います。

記事ライター：鷲頭 采夏 (3年)

# 大学院のすすめ ～ プロフェッショナルを目指してみませんか ～

応用化学領域 大学院運営委員 岡本 専太郎 教授

物質生命化学科では、全研究室で大学院への進学を勧めていますし、歓迎しています。これは、教員一同が「研究は面白い!」そして「価値のある仕事である」ということを実体験で味わい、信じて疑わないからです。大学院では、将来的に学術的あるいは社会的な意義のある研究成果が得られることも少なくありません。我々にとっては学生諸君が大学院で育ち、より専門的で高度な議論が出来ることが嬉しいのです。学生自身にとっても大学院で学修・研究することは、より専門的な職業、つまり、研究職や技術職として生きていく道を拓きます。実際、多くの化学系企業が研究職や技術職での採用に修士課程修了以上を要求しています。化学の領域も、日々大きな進歩を続けており、その内容や技術はどんどん高度化しています。従って、研究職や技術職としてやっていくには、卒業研究の1年間だけでは知識や経験、研究に対する考え方が十分ではありません。仕事によっては、さらに博士後期課程（博士課程）修了者が好まれることもあります。



一般論として、早く社会に出て経験を積み、活躍することも良いでしょう。一方で、高度な専門知識や技術を身につけた上で研究職や技術職という選択もあるのです。その間、さらに学費や生活費が必要になりますが、可能であれば進学を考えてみてはいかがでしょうか。修士卒の平均生涯収入が学部卒に比べておよそ四千～五千万円多いという政府の統計データもあります。もちろん、これが皆さん自身に当てはまるかどうかは、全く保証は有りませんが、このデータは企業が研究職や技術職の専門性に対して一定の評価をし、対価を支払っているということを示しています。

われわれ物質生命化学科は、神奈川大学の中で最も大学院への進学率が高い学科の1つとなっています。大学院応用化学領域では、学部での卒業研究のみならず大学院での研究に必要な施設・設備・装置が十分に用意され、外部資金獲得を活発に行なうことで装置類の最新鋭機への更新も円滑に行われています。公立私立を問わず他大学と比べても十分に恵まれた研究環境であると言えます。

現在の工学専攻応用化学領域（旧応用化学専攻）では、これまでに773名が修士の学位を、66名が博士の学位を取得し、企業や大学・研究機関などで活躍しています。大学院に進学して、プロフェッショナルを目指してみませんか？

## トピックニュース

F-Lab に本橋先生の記事掲載



「研究」で選ぶ大学進学情報サイトの『Professor』コーナーに本学として初めて掲載



F-Lab



本橋先生の紹介

## 編集後記

最後まで読んで下さりありがとうございました。コロナ禍の対面授業中に、この広報のお話を頂き、オンライン上で仕上げていくことなどの不安もありましたが、会ったことのない9名の学生委員とひとつのものを作り上げるという貴重な体験が出来ました。ACtiveを通じて、まだ学校に来たことの無い1年生や学校が恋しくなった高学年、就職活動や研究室に迷われた方々に少しでも励みになれば幸いです。最後に、この場を借りて取材にご協力いただきました教職員および関係者の方々に深く感謝申し上げます。

清水 柁希（2年）

Active2020 編集委員

小田内 健佑・刈谷 志穂・宍戸 佑衣・鷲頭 采夏・石田 匠・清水 柁希・宮本 悠有・天野 来紀・高橋 奈々恵

教職員：岡村 将也・郡司 貴雄・齋藤 美和

今年度のACtive制作にあたり、インタビューおよび打ち合わせ等の作業は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、すべてオンラインで実施いたしました。

